

第 18 章 高年齢人口

1 高齢者のいる世帯

3世代同居の世帯は12.2%に縮小

平成17年の65歳以上の親族（高齢親族）のいる一般世帯は41万830世帯で、12年に比べ7万3837世帯、率にして21.9%増と大幅に増加しています。一般世帯全体に占める割合も、平成7年の21.1%、12年の24.9%と次第に拡大し、17年は28.5%となっています。

平成7年から17年の10年間について、高齢親族のいる世帯の家族類型別にみると、核家族世帯のうち「夫婦のみ」の世帯は平成7年の7万6288世帯から17年の13万2948世帯へとこの10年間で1.7倍に増加し、このうち「高齢夫婦」世帯は同様に6万8493世帯から12万4331世帯へと1.8倍に増加しています。さらに、「夫婦と子供」から成る世帯は1.8倍、「ひとり親と子供」から成る世帯は1.7倍と、核家族化も進んでいます。一方、65歳以上の高齢者が子供夫婦や孫などと同居している核家族世帯以外の「その他の親族世帯」は7万8012世帯から7万654世帯へと7,358世帯減少しています。また、「単独世帯」は4万7448世帯から9万7621世帯へと2.1倍に増加しています。

この結果、高齢期を子供と同居せず、夫婦のみ又は一人で暮らしている世帯は、高齢親族のいる世帯の過半数(56.1%)を占めています。また、「3世代世帯」は、昭和55年に39.2%を占めていましたが、平成7年に20.2%、17年は12.2%と急激に縮小しています。（表18-1、図18-1）

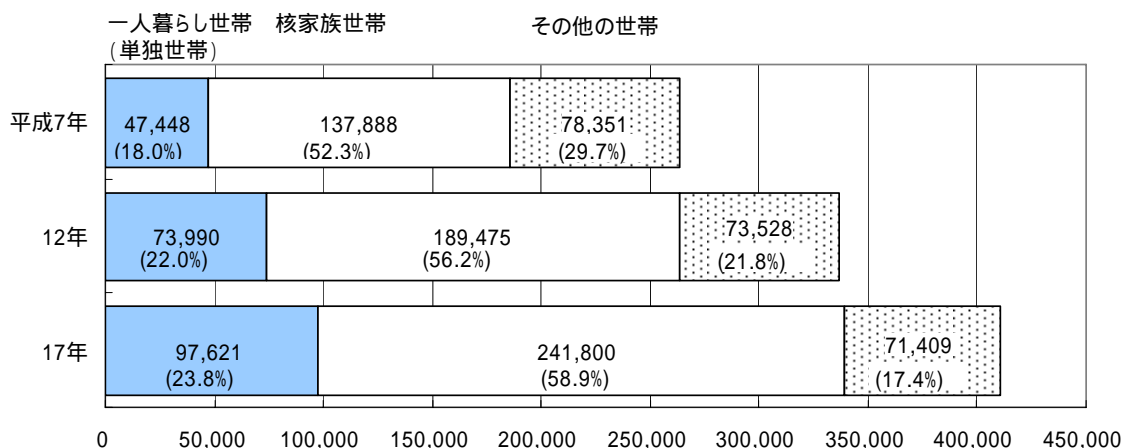
表 18 - 1 世帯の家族類型別 65 歳以上親族のいる一般世帯数（平成 17 年）

世帯の家族類型	一般世帯数			割合（％）			増減率（％）	
	平成7年	12年	17年	平成7年	12年	17年	平成7～12年	12～17年
65歳以上親族のいる一般世帯数 1)	263,687	336,993	410,830	100.0 (21.1)	100.0 (24.9)	100.0 (28.5)	27.8	21.9
親族世帯	215,900	262,485	312,454	81.9	77.9	76.1	21.6	19.0
核家族世帯	137,888	189,475	241,800	52.3	56.2	58.9	37.4	27.6
うち夫婦のみ	76,288	105,666	132,948	28.9	31.4	32.4	38.5	25.8
うち高齢夫婦 2)	68,493	96,440	124,331	26.0	28.6	30.3	40.8	28.9
うち夫婦と子供	36,188	50,329	65,547	13.7	14.9	16.0	39.1	30.2
うちひとり親と子供	25,412	33,480	43,305	9.6	9.9	10.5	31.7	29.3
その他の親族世帯	78,012	73,010	70,654	29.6	21.7	17.2	6.4	3.2
うち3世代世帯	53,332	45,157	50,171	20.2	13.4	12.2	15.3	11.1
非親族世帯	339	518	755	0.1	0.2	0.2	52.8	45.8
単独世帯	47,448	73,990	97,621	18.0	22.0	23.8	55.9	31.9

1) ()内の数値は、一般世帯数に占める65歳以上親族のいる一般世帯数の割合

2) 高齢夫婦とは、男性65歳以上で女性60歳以上の夫婦

図 18 - 1 世帯の家族類型別 65 歳以上親族のいる一般世帯数の推移（平成 7 年～17 年）



2 高齢単身者

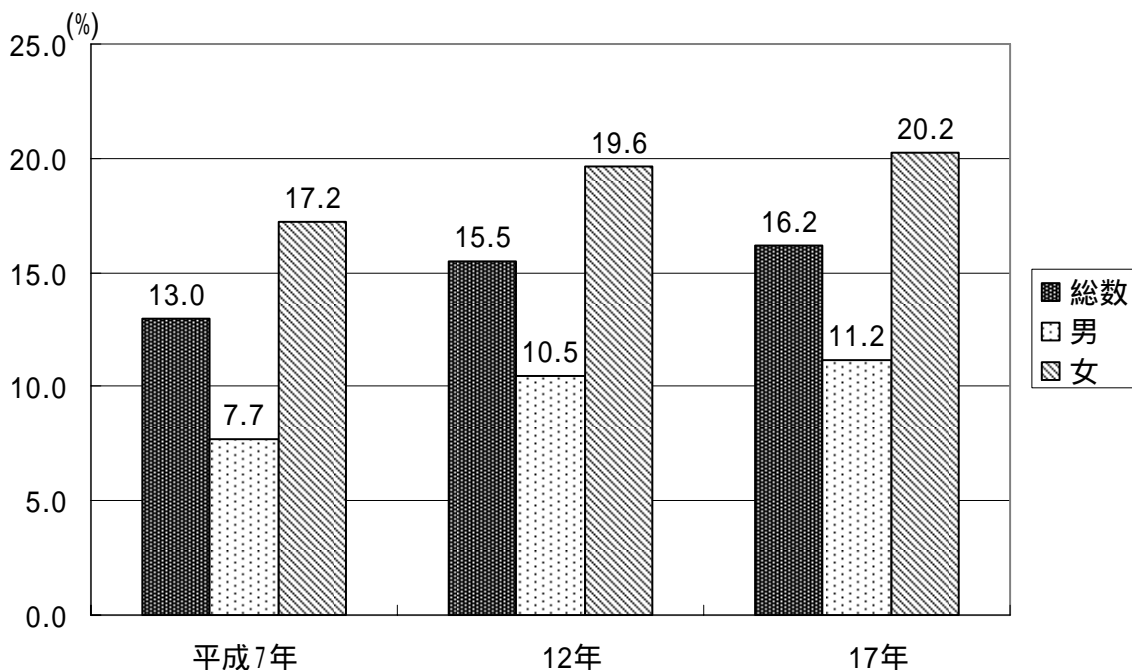
65歳以上の女性の5人に1人は単身者

高齢単身者(65歳以上の単身世帯 9万7621人)についてみると、平成7年に比べ5万173人(105.7%)と、約2倍に増加し、65歳以上人口に占める割合も平成7年の13.0%から16.2%へと拡大しています。これを男女別にみると、男性が3万536人、女性が6万7085人で、女性が男性の2.2倍となっています。また、65歳以上人口に占める割合は男性が11.2%であるのに対し、女性は20.2%と、高齢女性のおよそ5人に1人は独居状態となっています。(表18-2、図18-2)

表18-2 年齢(5歳階級) 男女別高齢単身者数(平成7年~17年)

年次, 男女	高 齢 単 身 者 数						各年齢階級別人口に占める割合(%)					
	総数	65~ 69歳	70~ 74歳	75~ 79歳	80~ 84歳	85歳 以上	総数	65~ 69歳	70~ 74歳	75~ 79歳	80~ 84歳	85歳 以上
総数												
平成7年	47,448	16,801	13,023	9,126	5,744	2,754	13.0	12.0	13.9	14.6	13.7	10.3
12年	73,990	21,747	20,526	16,074	9,593	6,050	15.5	12.6	15.9	19.2	19.0	14.8
17年	97,621	25,057	25,376	22,703	14,908	9,577	16.2	12.7	15.6	19.5	21.4	16.6
男												
平成7年	12,289	5,450	2,941	1,796	1,323	779	7.7	7.9	7.1	7.1	8.2	9.4
12年	22,370	7,874	6,167	4,103	2,344	1,882	10.5	9.3	10.0	11.6	12.4	14.5
17年	30,536	10,256	8,058	6,172	3,506	2,544	11.2	10.6	10.4	11.7	13.0	14.9
女												
平成7年	35,159	11,351	10,082	7,330	4,421	1,975	17.2	16.0	19.3	19.7	17.1	10.7
12年	51,620	13,873	14,359	11,971	7,249	4,168	19.6	15.7	21.3	24.8	22.9	15.0
17年	67,085	14,801	17,318	16,531	11,402	7,033	20.2	14.7	20.4	26.0	26.7	17.4

図18-2 65歳以上人口における男女別単身者の割合(平成7年~17年)



3 行政区別高齢者のいる世帯

中、西、南区 65歳以上の5人に1人は独り暮らし

行政区別に一般世帯に占める高齢親族のいる世帯の割合をみると、最も高いのは旭区の34.8%で、以下、南区の33.7%、磯子区の33.2%、栄区の33.1%と続き、主に南西の区で高くなっています。これに対して、最も低いのは都筑区の19.3%で、以下、青葉区の21.8%、港北区の22.7%、神奈川区の25.6%と続いています。

65歳以上人口に占める高齢単身者の割合を行政区別にみると、中区、西区(共に23.3%)、南区(21.4%)の中心3区で20%を超えている一方、郊外の区で低い傾向となっています。

(表18-3、図18-3、18-4)

表18-3 行政区別高齢親族のいる一般世帯数(平成17年)

行政区	一般世帯数			一般世帯に占める割合(%)			65歳以上人口に占める高齢単身者の割合	平成12年~17年の増加率(%)		
	高齢親族のいる一般世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身世帯	高齢親族のいる一般世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身世帯		高齢親族のいる一般世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身世帯
全国	17,204,473	4,487,042	3,864,778	35.1	9.1	7.9	15.1	14.4	22.6	27.5
横浜市	410,830	124,331	97,621	28.5	8.6	6.8	16.2	21.9	28.9	31.9
鶴見区	30,130	7,461	8,201	26.2	6.5	7.1	19.6	15.2	14.2	27.3
神奈川区	26,492	7,111	7,350	25.6	6.9	7.1	19.4	12.3	13.9	20.1
西区	11,406	2,739	3,751	28.5	6.8	9.4	23.3	8.7	12.3	18.0
中区	17,843	4,474	6,186	28.7	7.2	10.0	23.3	14.1	20.4	21.1
南区	28,465	7,608	8,483	33.7	9.0	10.1	21.4	13.3	17.0	19.1
港南区	26,613	8,866	5,377	31.3	10.4	6.3	13.7	24.9	35.3	24.1
保土ヶ谷区	26,302	7,807	6,640	31.4	9.3	7.9	17.2	21.3	23.8	39.8
旭区	33,209	10,952	7,310	34.8	11.5	7.7	14.5	25.9	32.0	44.5
磯子区	21,897	6,603	5,880	33.2	10.0	8.9	18.6	17.2	20.1	30.8
金沢区	26,039	8,351	5,666	31.5	10.1	6.9	14.9	22.1	29.1	40.9
港北区	30,909	9,379	7,315	22.7	6.9	5.4	16.3	18.7	23.6	27.9
緑区	17,548	5,560	3,542	26.7	8.5	5.4	13.3	32.5	41.8	42.5
青葉区	24,007	8,090	4,753	21.8	7.3	4.3	13.0	29.8	39.1	40.9
都筑区	12,440	3,669	2,330	19.3	5.7	3.6	12.3	38.8	63.4	44.5
戸塚区	28,806	9,591	5,656	29.0	9.6	5.7	12.9	29.7	41.5	43.3
栄区	15,488	5,485	2,965	33.1	11.7	6.3	13.0	32.5	45.1	47.4
泉区	17,631	5,706	3,083	32.3	10.5	5.7	11.4	28.4	41.4	47.1
瀬谷区	15,605	4,879	3,133	32.4	10.1	6.5	13.4	27.7	31.3	47.8

図18-3 行政区別一般世帯に占める高齢親族のいる世帯の割合(平成17年)

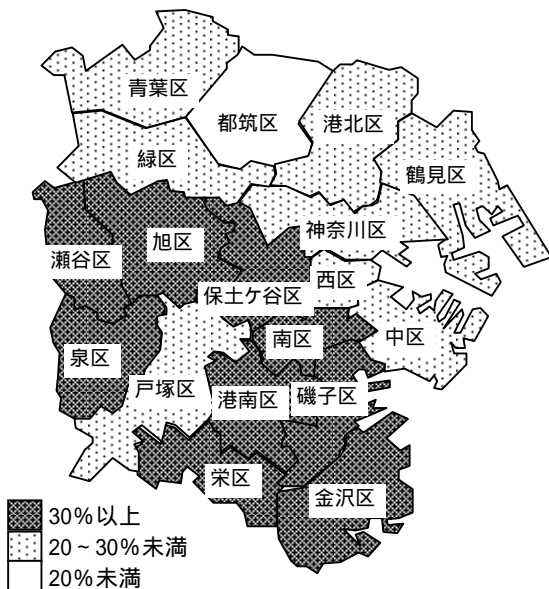
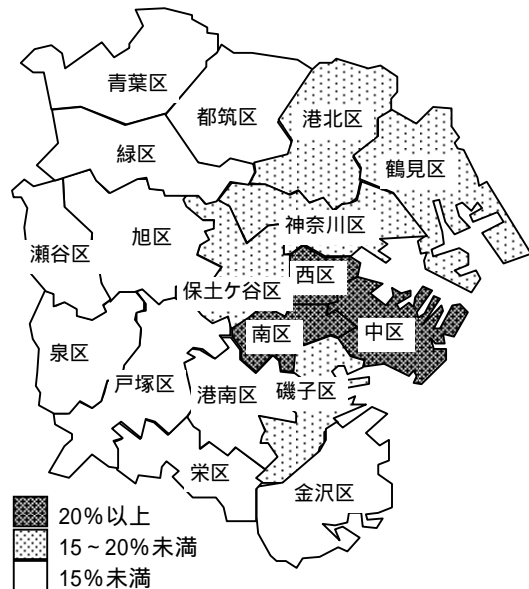


図18-4 行政区別65歳以上人口に占める高齢単身者の割合(平成17年)



4 高齢者の労働力状態

65歳以上の高齢者の労働力率は19.7%

高齢者の労働力状態をみると、65歳以上人口（60万3839人）のうち労働力人口は11万9026人で、平成12年に比べ2万3188人、率にして24.2%増加しています。一方、非労働力人口は45万8893人で、同9万5807人、26.4%増加しています。この結果、労働力率は0.4ポイント低下し19.7%となっています。また、就業者は11万2026人で、15歳以上の就業者総数（173万6859人）の6.4%を占めています。

労働力率を65～74歳の前期高齢者と75歳以上の後期高齢者とに分けてみると、前期は27.5%ですが、後期は8.2%となっており、健康や体力の衰えなどにより働く可能性が低くなるといえます。

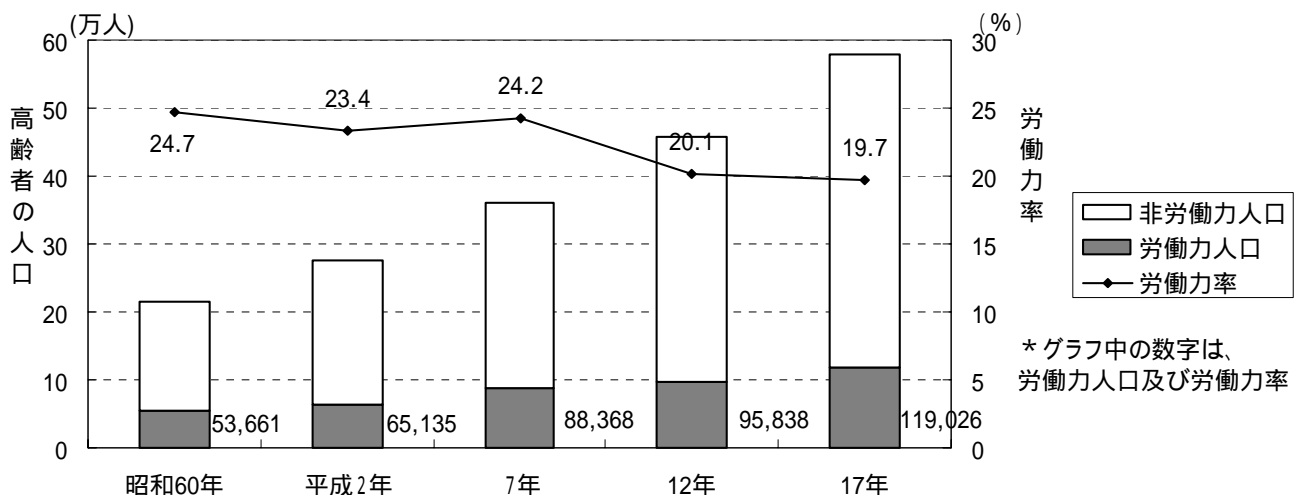
高齢者全体の労働力率を男女別にみると、男性が29.6%、女性が11.6%となっていますが、男性に限ってみると、前期高齢者では38.7%と約4割の人が、さらに定年直後の60～64歳では73.9%と7割以上の人が実際に就業したり、もしくは就業の意思を持っています。また、平成12年と比べると、男性の労働力率が1.6ポイント低下しているのに対し、女性は0.5ポイント上昇しています。（表18-4、図18-5）

表18-4 高齢者の労働力状態（平成17年）

男女、年齢	総数 1)	労働力人口			非労働力人口	労働力率 (%)	(参考)平成12年労働力率
		総数	就業者	完全失業者			
総数							
65歳以上人口	603,839	119,026	112,026	7,000	458,893	19.7	20.1
うち65～74歳	360,086	98,948	92,716	6,232	247,523	27.5	26.8
75歳以上	243,753	20,078	19,310	768	211,370	8.2	8.5
(別掲)60～64歳	235,365	130,155	120,868	9,287	99,355	55.3	52.4
男							
65歳以上人口	271,443	80,359	74,359	6,000	173,747	29.6	31.2
うち65～74歳	174,514	67,564	62,151	5,413	97,125	38.7	39.0
75歳以上	96,929	12,795	12,208	587	76,622	13.2	14.3
(別掲)60～64歳	115,747	85,508	77,731	7,777	25,886	73.9	71.5
女							
65歳以上人口	332,396	38,667	37,667	1,000	285,146	11.6	11.1
うち65～74歳	185,572	31,384	30,565	819	150,398	16.9	15.3
75歳以上	146,824	7,283	7,102	181	134,748	5.0	4.9
(別掲)60～64歳	119,618	44,647	43,137	1,510	73,469	37.3	33.3

1) 労働力状態「不詳」を含む。

図18-5 65歳以上高齢者の人口及び労働力状態の推移（昭和60年～平成17年）



高齢単身者の労働力率は男性が22.9%、女性が12.7%

高齢者の労働力状態を世帯の家族類型別にみると、高齢単身者（9万7621人）のうち労働力人口は1万5494人で、労働力率は15.9%となっています。労働力率を男女別にみると、男性が22.9%、女性が12.7%となっていますが、高齢者全体の労働力率（男性29.6%、女性11.6%）と比べると、男性は6.7ポイント低く、女性は1.1ポイント高くなっています。（表18-5）

高齢夫婦の夫の就業率は26.3%

高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上（他の世帯員がないもの））12万4331世帯では、夫が就業の世帯（「夫婦とも就業」と「夫が就業、妻が非就業」の計）は26.3%、夫が非就業の世帯（「夫が非就業、妻が就業」と「夫婦とも非就業」の計）は67.9%となっており、夫婦のいる一般世帯（夫が就業77.7%、夫が非就業19.6%）と比べ、夫が非就業の世帯の割合が高くなっています。また、夫婦とも非就業の世帯は全体の約6割あるのに対し、夫婦とも就業の世帯は約1割にとどまっています。（表18-6）

表18-5 高齢単身者の労働力状態（平成17年）

男女、年齢	総数 1)	労働力人口		非労働力人口	労働力率 (%)
			うち就業者		
総数	97,621	15,494	14,084	71,502	15.9
うち65～74歳	50,433	12,229	10,972	32,533	24.2
75歳以上	47,188	3,265	3,112	38,969	6.9
男	30,536	6,978	5,942	17,656	22.9
うち65～74歳	18,314	5,713	4,774	9,283	31.2
75歳以上	12,222	1,265	1,168	8,373	10.4
女	67,085	8,516	8,142	53,846	12.7
うち65～74歳	32,119	6,516	6,198	23,250	20.3
75歳以上	34,966	2,000	1,944	30,596	5.7

1) 労働力状態「不詳」を含む。

表18-6 高齢夫婦世帯の就業状態（平成17年）

夫の年齢	総数 1)	夫婦とも 就業	夫が就業 妻が非就業	夫が非就業 妻が就業	夫婦とも 非就業
実数					
総数	124,331	12,116	20,577	5,349	79,112
うち65～74歳	77,844	9,817	16,998	4,418	42,722
75歳以上	46,487	2,299	3,579	931	36,390
割合(%)					
総数	100.0	9.7	16.6	4.3	63.6
うち65～74歳	100.0	12.6	21.8	5.7	54.9
75歳以上	100.0	4.9	7.7	2.0	78.3

1) 労働力状態「不詳」を含む。